

社会資本総合整備計画 社会資本整備総合交付金

令和02年01月22日

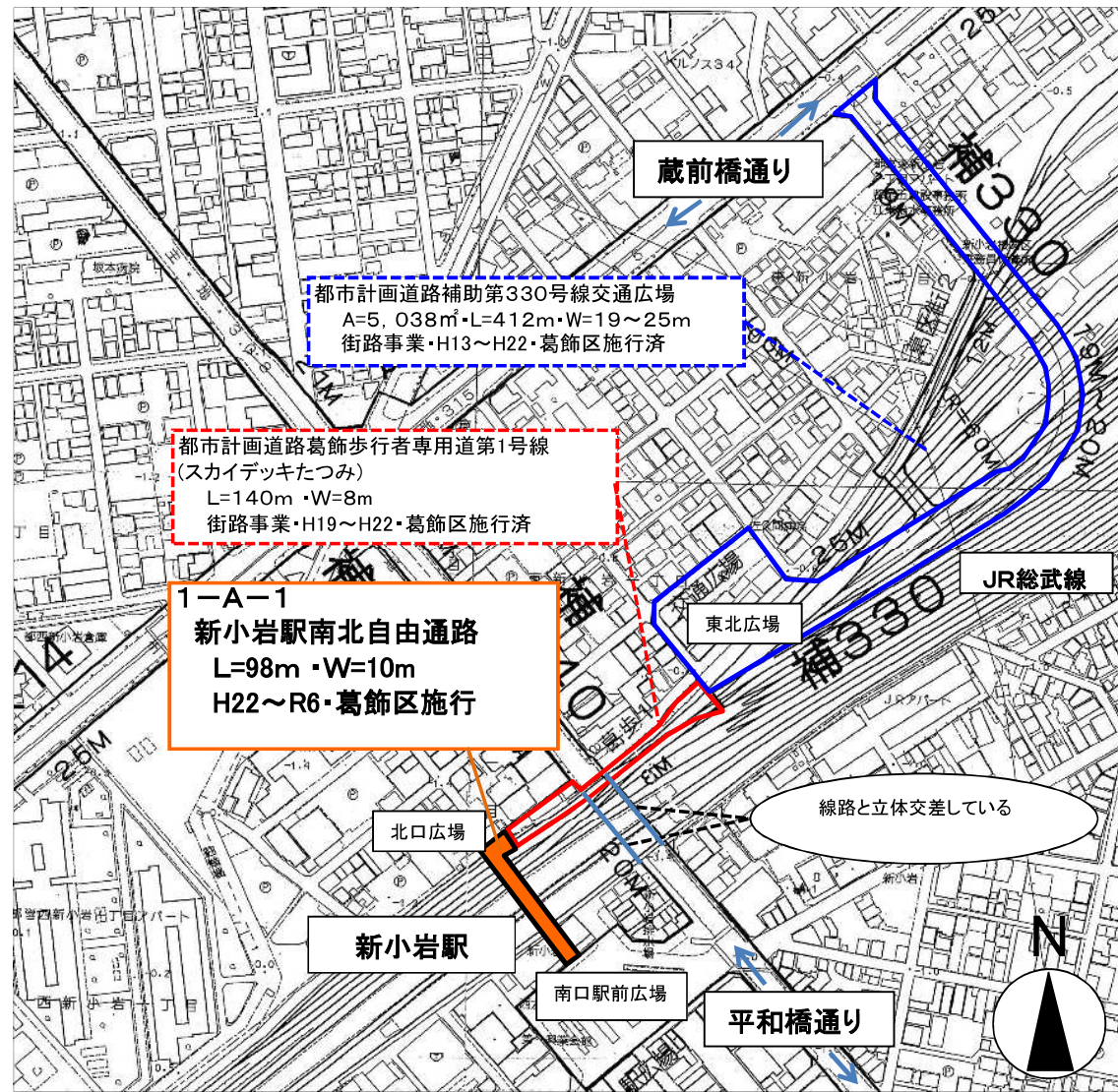
計画の名称	新小岩駅地区の交通結節機能向上及びバリアフリー化の推進												
計画の期間	令和02年度～令和06年度(5年間)							重点配分対象の該当					
交付対象	葛飾区												
計画の目標	<p>新小岩駅地区は、葛飾区の南部に位置し、駅を中心に区内最大の繁華街を形成し、その周辺に住居系地域が広がっている。駅南側に駅前広場があるが、交通が集中し混雑が著しいため、駅東北側に新たな交通広場を整備した。</p> <p>駅周辺はJ R線（総武線）と補助第140号線（平和橋通り）によって大きく4つのエリアに分断されており、特に線路で分断された南北間の歩行者動線は、J R線と立体交差している平和橋通りのみであり、その歩道は駅改札から離れており掘割状で幅員も狭く、歩行者と自転車とが交錯するなど、歩行者にとって安全性と利便性に欠けていたが自由通路暫定開通により改善されている。また、駅の日乗降客数は約15万人であり、エスカレーターや車椅子用リフトは整備されているが、エレベーターが無く、十分なバリアフリー化がされていない状況であったが、自由通路整備に伴いエレベーターの設置を行った。区では、平成23年に都市計画マスタープランを改定し、新小岩駅周辺を「広域複合拠点」と位置付け、広場や自由通路の整備、地元商店街の活性化など総合的な都市基盤、環境整備を進め、交通機能、商業・生活サービス機能の充実及び駅周辺の一体性・回遊性の向上を図るとしている。補助第330号線（東北交通広場）、葛飾歩行者専用道第1号線は、平成22年度に整備が完了し、現在、南北の駅前広場を往来できる南北自由通路を整備中であり、両広場の交通結節機能の向上とバリアフリー化を図っていく。</p>												
全体事業費(百万円)	合計(A+B+C+D)	98	A	98	B	0	C	0	D	0	効果促進事業費の割合C/(A+B+C+D)	0	%

計画の成果目標(定量的指標)				
番号	定量的指標の定義及び算定式	定量的指標の現況値及び目標値		
		当初現況値	中間目標値	最終目標値
		R2当初	R4末	R6末
1	自由通路に隣接する駅及び生活関連経路のバリアフリー化率を100%にする。 自由通路に隣接する駅及び生活関連経路のバリアフリー化率を算定する。 バリアフリー化率(%)=(自由通路に隣接する駅及び生活関連経路のBF特定事業のうち完了した事業数)/(自由通路に隣接する駅及び生活関連経路のBF特定事業総数)	0%	67%	100%

備考等	個別施設計画を含む	-	国土強靱化を含む	-	定住自立圏を含む	-	連携中枢都市圏を含む	-
-----	-----------	---	----------	---	----------	---	------------	---

計画の名称	新小岩駅地区の交通結節機能向上及びバリアフリー化の推進		
計画の期間	令和2年度 ~ 令和6年度 (5年間)	交付対象	葛飾区

【施設計画概要図】



事前評価チェックシート

計画の名称： 新小岩駅地区の交通結節機能向上及びバリアフリー化の推進

事前評価	チェック欄
I. 目標の妥当性 ①都市計画マスタープラン計画等との適合	
I. 目標の妥当性 1) 計画の目標が都市計画マスタープランと適合している	○
I. 目標の妥当性 ②地域の課題への対応	
I. 目標の妥当性 1) 地域の課題を踏まえて、地区の整備目標が設定されている	○
I. 目標の妥当性 2) バリアフリー化の必要性という観点から地区の位置づけが高い	○
II. 計画の効果・効率性 ③整備計画の目標と定量的指標の整合性	
II. 計画の効果・効率性 1) 目標と指標、数値目標の整合性が確保されている	○
II. 計画の効果・効率性 2) 指標・数値目標が区民にとって分かりやすいものとなっている	○
II. 計画の効果・効率性 ④事業の効果（要素事業の相乗効果等）の見込みの妥当性	
II. 計画の効果・効率性 1) 十分な事業効果が確認されている	○
III. 計画の実現可能性 ⑤円滑な事業執行の環境	
III. 計画の実現可能性 1) 計画の具体性など、事業の熟度が高い	○
III. 計画の実現可能性 2) 計画について住民等との間で合意が形成されている	○
III. 計画の実現可能性 ⑥地元の機運	
III. 計画の実現可能性 1) 住民等と協力して計画を策定している	○

事前評価	チェック欄
III. 計画の実現可能性	
2) 継続的なまちづくりの展開が見込まれる	○